

令和6年度第1回図書館協議会 会議内容要旨

■日 時：令和6年4月12日（金）午後4時～午後5時30分

■場 所：図書館3F会議室

■参加者：（登別市立図書館協議会委員）

合田 美津子委員

松原 條一委員

須藤 和恵委員

原 美紀委員

（行政）

教育部

館下部長

西川原次長

教育部図書館

鈴木館長

綿貫主査

坂本主任

大澤主任

■事務局からの資料説明

（主査）

「登別市立図書館が考える新図書館デザインプラン」についての説明
～資料以外の補足説明～

2 図書館サービスの基本的な考え方

- ・ブックカートは今年度予算で購入予定

3 必要なスペース

- ・書架の配置（特に絵本はサイズが違うため、見せ方と収納に留意する。）
- ・新聞はお年寄りのトラブルになりやすいため判りやすくする。
- ・「ハコニワ」とは、書架の中に棚を入れるものである。
- ・点字資料、録音資料は現在の所蔵数は少ない。
- ・図書館には楽しみも必要なため、これらのスペースも考える。
- ・カウンター、記載台などはユニバーサルデザインに対応したものとする。
- ・ラーニングコモンズ～オープンスペースで勉強しながらスタッフがいる場所のこと。受験生、高校生の利用も多いことから環境を整える。
- ・郷土資料室～自由に入れるのもありではないかと考える。
- ・飲食可能～市民から求められることが多い。
- ・現在会議室は1つだが2つ必要かと思う。
- ・増え続ける本への対応。スペースが必要。

■意見交換

(合田委員)

(資料の内容は) 当たり前の最低ライン。これ以下になっては困る水準。決して豊かではない数値を、いかに使っていくか。綿貫さんが来て改善、工夫しながら最低ラインにいる。なんとかやっている。これを考えると新館建築しかない。

(須藤委員)

事例が二つ。一つは、市外から転入した親子が本館を利用した後に、本館はどこかと聞く。(本館であると認識されないほど) ここで過ごすには空間が厳しい。本の貸し借りは良いのだが。もう一つは、入試で勉強にくるが図書館がいっぱいでスペースがない。

(原委員)

エントランスイメージが単館か複合館によって変わってくると思う。
また、(蔵書管理やセルフ貸出などで) IC タグの方向も考えているか。

(主査)

IC は高価なので予算との兼ね合いもある。費用対効果も考え、検討事項。

(館長)

図書館システムを三市で共同運用しており、IC タグ導入にはシステム改修も考慮が必要になる。ハードルは高く、即答は難しい。

(松原委員)

現本館は、いつできたか？(回答：昭和47年) 52年前建てた時、そんなに批判はなかったと思う。古いから不具合でるのはしょうがない。新しいの建てる予定あるとかか考えると、10年後のイメージなら人口減少もある。大きな箱作って、人口がいなくともあり得る。現時点でのイメージで出されたと思うが、何年後というイメージがないと協議できない。今は限られたスペースでやるしかないが、このプランはどこかに発表したりする予定あるか。

(館長)

今は、皆さんの意見を聞いてプランを作る段階で、固まった方針はない。今の課題を解消する材料の一つとして、数年か数十年かになり、図書館の利用のされた方も変わっていくかもしれないが、今現在を見据えて、将来を考えたい。

(松原委員)

イメージはつかめた。すぐやる返事でないのは承知した。アーニスの件も聞いた。不便な点もわかるが、この先を考えた時、もう少し具体的なものがあれば。説明を聞いて平屋かなとは思った。段差がないワンフロア。

それから、場所の問題や交通の面も考える必要がある。スモールシティにしても(バスの関係も模索している)、車に乗れない人は支所があれば便利とか、電子図書館やこぐま号の役割もある。建物も大事かと思うが、これでは進まないかなど。意見として聞いてもらえれば。

(主査)

これはまだ計画ではなく構想の段階。今までは構想もなかった。計画ほど詳しいものは、まだこれから。

(松原委員)

進化したと言うことですね。今は狭い。じゃあどうする?と考えるのフォローが必要。別の場所なども含めて。勉強するのは、本を借りる機能が無くても場所があれば良い。例として、市民会館の場所を使うとか。これまでのフォローがない。狭い、小さいでしかたないではなく、どうするか絶対必要。新しくするまでに現在できることなので、関係部署と話して出来ることから進める。

(部長)

大事なこと。出来ないではなく、何が出来るか。3Fも改善、アーニスも改善。まだまだ改善していく余地あり。図書館だけではなく、市教委、市全体として考えていかないとない。

(原委員)

今、図書館の付加価値が求められている。津軽市は、農業関係のデータベースを見られる。登別は観光とか。ほかと違うとか。

(須藤委員)

今のが100%良くないとは思っていない。登別ならではの良さもある。構想であればと発言したが、改善を怠っていると思っているわけでも、否定しているわけでもない。

(部長)

良さというのはどのようなことですか？

(須藤委員)

児童だけのカウンターがあり、児童専任のスタッフがいる。「この子にはこの本」というような紹介ができ、夏休みなどの課題図書でその子にあわせた適切なアドバイスができています。いつもの様子がわかっているので出来ることで、身近にいるのが大きい。

読み聞かせについても、一般を邪魔しないのでやりやすい。ワンフロアだと、隣で新聞読んでいるのに、ここで読み聞かせをする？ということも起こり得る。

(部長)

良い面は良い面で残していくのも大切。

(須藤委員)

広くても読み聞かせのスペースがあれば良い。

(合田委員)

誤解しそう。児童図書がこれで良いといわれれば反対。

(原委員)

学校だと個々にあわせて対応できる。大事なのは司書。大きさ、数の議論に振りかえてほしくない。議論のすり替えではなく、これからの図書館を考えるのに最低のラインだと思う。みんなで共通理解として。

(合田委員)

世の中居場所が欲しいと言っている。社会のニーズ。図書館って本当に居場所？図書館に求める？それは公民館の役割。市民のニーズがあるからといっても、図書館は子どもが学習する場所ではない。ニーズがでると部屋をつぶして学習室になど、いつからか当初の目的から外れてしまっている。考える前に現状が動いている。図書館本来の役割を考えるべき。ニーズがある、よそがやっているからとやるのは簡単。登別市としてどういう？再度確認することも大事。はやりではなく。限られた中で市民合意をやっていく。

(館長)

そのためのたたき台ということで、今回お示しした資料で何か抜けているものがあればお聞きしたい。

(須藤委員)

今後、この会議の見通しは。

(館長)

現委員の任期が5月までのため、(委嘱替え事務後)6月か7月に開催し委嘱状をお渡ししたい。その時には、何かしらの情報提供や、意見を伺いたい。

(須藤委員)

ここも50年前はわからず建てた。今思っている知識や経験で最大限考えるしかない。そういう時間をかけていただけたら良いなど。

(合田委員)

移転問題は？

(館長)

現段階で正式なものはない。動きがあれば情報提供したい。

(合田委員)

前回補助金6月までにと言っていた。

(部長)

総務部と確認。時間のない中で進めたくない。

(合田委員)

期限が決まっている中で市民合意は無理。図書館の理解を深めて、6月と焦らずに。違う補助金が出るから、焦るなど言いたい。もっと大事に考えましょう。

(部長)

何か欠けているものは。

(合田委員)

すぐに答えられないが、おおむね入っているとざっと見て思う。後で見直したい。これくらい整っていれば、公共図書館であると考えてる。

(館長)

司書の力量も忘れずに、現状の良さも活かしつつということですね。

(合田委員)

働いている人の環境も考えてほしい。狭いところで我慢している。働く環境がかなり影響している事例を見てる。ないがしろにしてはダメ。財源もあるが、まず働きやすい環境を整えること。

また、松原さんの言う小さい図書館をあちこちにというのも一つの考えだが、図書館はやっぱりある程度のスペースが必要。将来50年の図書館構想は考えていかないとまずい。専門性が必要なので、役所の人が図面描いて進めるのはまずいと思う。専門家をお願いした方が良い。

(松原委員)

10年、20年どうなるかわからない。30年前ネット通販も想像しなかった。これから先もどうなるか、社会の流れはわからない。最低ラインをたもって運営していかないとない。

(主査)

知恵を使ってずっとやってきたつもりだ。

(松原委員)

評価している。今までやってきたことも知っている。自分は合田さん以上に評価している。綿貫さんが来てから良くなっている。それとは別の話。みんなの協力を得て達成できるものがあればやってほしい。

(部長)

補助金ありきではなく、補助金なしでも出来ない。また（情報があれば）お知らせします。

以上